

◆ ICT活用

《学生の臨地実習におけるICT利用の試行実施》

【実績】

- ・ タブレット端末を実習先で使用するとし、使用予定の学生に対し、事前に使用方法を説明し、学内でデモンストレーションを行った。
- ・ 実習期間は6月6日から16日のうち9日間で、実習期間中のICTの利用は3回であった。使用目的は実習状況や実習スケジュール等の確認であった。3回の使用において音声や映像の途切れ等の通信トラブルは見られず、スムーズなやり取りを行うことができた。

【成果】

- ・ 学生の実習においてICTを活用して実習状況の確認等を行うことができた。又、その際、通信トラブルもなくスムーズなやり取りを行うことができた。
- ・ 担当教員からは、遠距離で教員が実習施設に赴くことが出来ない場合でも、ICTを利用して学生と教員が顔を合わせて話をする事が出来、より細やかに実習状況を把握し、学生に対してアドバイスできるという感想があった。

【実施上のポイント】

- ・ あらかじめ事前の操作説明を十分に行い、学生が端末を一人で利用できるようにする。

【実績】

- ・ 昨年度の課題である、音声や映像の途切れや切断などのトラブルを改善するため、学内及び協力施設のスピードテストを行い、その結果をもとに、学内では無線接続から有線での接続に切り替え、さらにスピードが確保できそうな場所をリカレント教育の講義室とした。
- ・ その結果、音声が聞き取りにくいと言う状況は複数回見られたが、映像切断の状況は改善された。また、講義が中断することが無いように、チャットを利用して接続状況の確認や、わかりにくいことなどについて補足した。
- ・ 今年度のリカレント教育におけるICT利用は、延べ26施設50名の利用があった。
- ・ 看護研究相談・支援におけるICT活用については、今年度は研究相談を行った施設が近距離であり、ICT活用の必要性がなかったため、ICT利用はなかった。

【成果】

- ・ 接続が大幅に改善することができ、講義中の聞き取りにくさは多少あったものの、昨年度と比較してスムーズな講義運営を行うことができた。
- ・ ICTでの受講生は今年度も延べで50名おり、本県のような公共交通機関の少ない地域における研修手段としての可能性は大きいことが伺えた。

【実施上のポイント】

- ・ 使用前に機器等についての操作説明を十分に行い、可能な限り事前にアプリケーションを使用し、接続の確認を行う。
- ・ 実際に事前に使用説明を行なう他に、わかりやすい説明書を作成し配布する。
- ・ 講義中もチャットの活用などにより講義を中断することなく、その場で対応できるように考慮する。